

新潟漫画文化記

発行元

新潟青陵大学
現代社会
ディレクション

文化「創り出す」地域へ

マンガ・アニメのクリエイター育成に焦点

新潟市は、マンガ都市としての魅力をさらに高めるため、「マンガ・アニメを活用したまちづくり構想」を策定した。その構想の中の一つにクリエイターの育成支援が挙げられている。

市の支援だけでなく、他の企業や民間のイベントもマンガ都市としてのまちづくりの一助となっている。

主な市の取り組みとして、漫画家志望者に住居や創作活動の場を提供するサービスや、商店街の空き店舗における創作活動の場の運営支援などがある。2014年からは、女性の漫画家志望者を対象としたシェアハウスが提供されている。



同人誌展示即売会「ガタケット」の様子(ガタケット公式HPより)=新潟市中央区

東京都のアニメーション制作会社「エイトビット」は、災害時の事業継続を見据え、新潟市中央区にスタジオを開設した。漫画やアニメを活用したまちづくりによる魅力も、新潟を地方拠点として選んだ理由の一つだという。同社は新潟日報の取材に対し「新潟のアニメ業界を盛り上げ、地域の雇用にも貢献したい」として、クリエイター育成の側面からもまちづくりの活性化が期待できる。

クリエイターが集う場として、同人誌展示即売会「ガタケット」「新潟コミティア」も定期開催されている。同人誌展示即売会は

時代に沿って試行錯誤

新潟市で開催されているマンガコンテスト「にいがたマンガ大賞」の応募作品数が、近年減少傾向にある。主催であるにいがたマンガ大賞実行委員会と新潟市は、時代に伴うマンガ様式の変化に合わせて応募条件を改定するなど、応募の促進に取り組んでいる。

にいがたマンガ大賞は、1997年から毎年開催されている。プロ・アマチュアを問わないコンテストだ。「にいがた」と銘打たれているものの、居住地域による応募制限もなく、その間口は広い。「一般部門（ストーリーマンガの部）」・「一般部門（コママンガの部）」

部・高校生部門・中学生部門・小学生部門と分かれており、マンガ以外にイラスト部門が設けられている。このコンテストをきっかけに、漫画家としてデビューを果たした受賞者も複数いる。2019年には、第14回の同大賞中学生部門で奨励賞を受賞した伊藤

里が「なかよし」で連載を開始した。

元々はアナログ原稿のみを受け付けていたが、マンガのデジタル作画が主流となった近年では、データの原稿応募も可能となった。そして2023年には「タテ読みマンガ作画部門」が新設された。タテ読みマンガはスマートフォンなどのモバイル端末で読むことに特化した形式であり、モバ

第26回にいがたマンガ大賞表彰式は、令和6年2月24日に開催予定だ。

普段から新潟駅、万代エリアをよく利用するが、ここが「マンガ都市」だと実感が持てるシンボルが少ないと感じる。新たな試みやイベントは盛んに行われているものの、その詳細はまだまだ知る人ぞ知る。といった感覚が拭えない▼今に繋がるマンガ・アニメ文化形成の土台となった人々にもさらに焦点を当ててほしい。高橋留美子、赤塚不二夫、水島新司、魔夜峰央など、新潟にゆかりのある誇るべき漫画家は多い。昨今はアニメの分野にもバイブルブームが到来



返礼品のペーパーウェイトを制作する照井康一さん(新潟市秋葉区)

ふるさと納税にアニメを

返礼品で地域PR

自費出版の漫画や小説を頒布するイベントだが、これらのイベントでは同人誌のみならず、音楽や手芸、コスプレ、ゲームといった幅広い分野の創作の成果が発表されている。過去には声優を招いたトークイベントやライブも行っており、アニメ文化の交流も盛ん

2020年に、SFアニメ「銀河英雄伝説 Die Neue These」の登場キャラクターをモチーフとした、ガラス製のペーパーウェイトがふるさと納税の返礼品として採用された。新潟市でアニメ作品のアイテムが返礼品となることは今回が初めてだ。

アニメ「銀河英雄伝説」の制作会社「フロンティア・アイジ」は新潟市中央区にスタジオを構えており、市にゆかりがある。返礼品のペーパーウェイトを制作するのは新潟市秋葉区の高橋留美子、秋葉硝子、透明度の高いガラスでキャラクターカラーの色ガラスを包み込み、銀河を思わせる気泡が吹き込まれている。また、作中に登場する艦隊が新潟市上空を飛行する場面のイラストカードが特典として付属する。加えて、秋葉硝子代表の照井康一さん(当時71)が実際にペーパーウェイトを制作する様子の動画がプロダクション・アイジー公式サイトで公開されており、その技術とともに紹介されている。

市役所から新潟駅、万代エリアをよく利用するが、ここが「マンガ都市」だと実感が持てるシンボルが少ないと感じる。新たな試みやイベントは盛んに行われているものの、その詳細はまだまだ知る人ぞ知る。といった感覚が拭えない▼今に繋がるマンガ・アニメ文化形成の土台となった人々にもさらに焦点を当ててほしい。高橋留美子、赤塚不二夫、水島新司、魔夜峰央など、新潟にゆかりのある誇るべき漫画家は多い。昨今はアニメの分野にもバイブルブームが到来

自説 文化浸透のために



新潟市マンガ・アニメ情報館内の「うる星やつら」コーナー=新潟市中央区

している。2022年には、高橋留美子原作の「うる星やつら」が再アニメ化され話題となった。魔夜峰央原作の「パタリロ!」は舞台化、「翔んで埼玉」は映画化されている。昔懐かしいレトロな雰囲気のかわいらしさが若年層にも人気だ▼万代・古町に関連施設があるが、駅や駅前エリアにも「マンガ都市」をアピールできる目玉スポットがあってもいいのでは。マンガと新潟の関連が市民により浸透することで、さらに盛り上がりにつながることを期待したい。

この返礼品を通して、市ではアニメ文化の発信と地域産業の振興、秋葉硝子はアニメファンという新たな顧客層の期待をしている。新潟市が「マンガ・アニメのまち」であることを市外・県外にもアピールし、地域の活性化に繋げていきたいところだ。

県内の三条市では、同市が舞台となったオリジナルTVアニメ「Do It

Yourself!!」という一つ・ゆあせるふ」のコラボアイテムがふるさと納税の返礼品として出品された。また、ふるさと納税の各ウェブサイトで「アニメ・マンガに関連した返礼品の特集ページ」が設けられるなど、アニメファンによるふるさと納税活用の関心が高まっている。新潟市においても、「マンガ・アニメのまち」を生かしたPRが期待される。